

平成27年度 全国学力・学習状況調査 池田小の様子について

■ 4月21日に実施した全国学力・学習状況調査の池田小学校の結果の概要をお知らせします。調査内容は、次の2つに分かれています。

①教科に関する調査

国語A・算数A…「主として『知識』に関する問題」
・身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容。
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識技能など。

国語B・算数B…「主として『活用』に関する問題」
・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力を問う内容。
・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など。

理科…「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。

②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

■ 結果が8月末に届き県教委、市教委の研修を参考に、本校の分析を行いました。結果がまとまりましたので、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせするとともに、池田小学校のホームページにも掲載いたします。

池田小学校では、この結果分析をもとに本校児童の学力や学習の状況を把握し、本校の課題や児童の生活実態を明らかにすることにより、これからの児童への教育指導の充実や学習状況の改善、生活指導などに役立ててまいります。

調査に参加した6年生には、一人ずつ個別懇談のうちに個人票をもとに具体的に課題等について説明していく予定です。

なお、全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析でも強調されましたが、全国平均正答率の±5%の範囲内は、ほぼ同等であると考えています。

■ しかし、今年度の結果については新聞等で様々な報道が行われています。いたずらに点数にこだわることなく、結果を次の学習に生かしていきたいと考えています。

1. 本校の状況

本校の結果は全国とほぼ同等でした。算数Bは僅かに全国平均を下回っていますが、国語A・B、算数A、理科はやや上回っています。全国平均に照らしても基礎基本の定着が図られていると思われる。

本校の児童は正答率の低い問題でも無回答率が低く、難しい問題に対してもあきらめないで最後までねばり強く考え回答しようとしていました。

2. 本校の主な課題(以下常体表現で記述)

<国語・総評 △要注意>

国語A「主として『知識』に関する問題」

・全国平均正答率とほぼ同等といえる。
△「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」、「文の中における主語を捉える」、「話の内容に対する聞き方を工夫する」、「新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える」などの問題で正答率がやや低かった。

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのままとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの一と二の問いに答えましょう。

【コラム】 記事の中の▼は、ままとまりを表す印です。

1 ▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界の本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2 ▼子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子が心がおどった。3 ▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4 ▼先日、『セロ弾きのゴーシュ』を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事なえがきやたくみな描写に、賢治のすばらしさを実感した。5 ▼世界の人が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

※1「描写」…かき表すこと。
※2「童心」…子供の心。

問題1

筆者は、「子どもの読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているままとまりを「コラム」の中の1から5までの中から二つ選んでその番号を書きましょう。

問題2

筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それはどの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの5文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。)や読点(、)かぎかっこは字数に含まれません。

※回答用紙に5文字の枠があり、それに記入。

■ 上記の問題の第二問の正答率が国語Aの中で最も低い。しかし本校は全国平均を上回った。

■ 漢字では「シャワーをあ(浴)びる」の正答率が低かった。小学校で学習する漢字はその学年内で確実に身に付けさせたい。

国語B「主として『活用』に関する問題」

・全国平均正答率をやや上回る。全ての設問の正答率で全国平均をやや上回った。

△「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く」「文章と図とを関係づけて自分の考えを書く」問題で正答率がやや低かった。

- 〈条件〉
- 部についての理由が分かる言葉を、〈話した内容〉の中から「」を使って取り出し、その言葉と「表情や声の調子」の中の内容を合わせて、一文で書くこと。
 - 書き出しに続けて、四十字以上、七十字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

【中田とよさんへのインタビューの様子】

〈話した内容〉

* あやとりのコーナーに参加してよかったわ。それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。みなさんも準備が大変だったことでしょうね。町で会ったときにはいつでも声をかけてください。今度の案内も楽しみにして待っていますね。

中田とよさん

〈表情や声の調子〉

- ・目を細めている
- ・明るい声

三 【ふれあい新聞（六月号）】の感想をのせることにしました。次の【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書きます。おどの条件に合わせ、書きましよう。

ア

の中には、あやとりのコーナーに参加した中田とよさんの感想をのせることにしました。次の【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書きます。おどの条件に合わせ、書きましよう。

問題

「また、参加された中田とよさんは、」という書き出しがあって70字の原稿用紙に自分の考えを書いていくという問題。

- この問題は全国の前答率を見ても、国語Bの中で最も前答率が低い問題だった。本校の結果も同様だが、本校の前答率はそれを上回った。
- 内容をまとめて書くという授業内容の改善につなげていく必要がある。

<算数・総評 △要注意>

算数A「主として『知識』に関する問題」

・全国平均前答率をわずかに上回った。
 △「除数が整数である場合の分数の除法の計算」「示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択することができる」「グラフの読み取り」は全国の前答率をやや下回った。

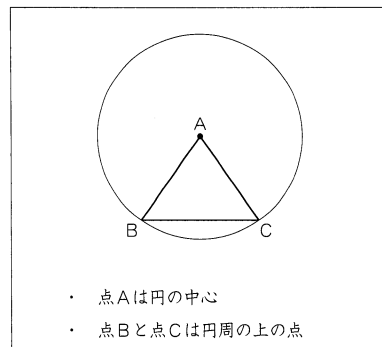
■ 大問2は計算問題が4問。

- (1) $28 + 72$ (2) $6.79 - 0.8$ (3) $\frac{5}{9} - \frac{1}{4}$ (4) $\frac{5}{6} \div 7$

小数や分数の計算は4年、5年の学習内容である。基礎・基本は該当学年で身に付けたい。

5

次の図のように、円を使ってかいた三角形ABCは、二等辺三角形になります。



(1) 三角形ABCが二等辺三角形になるのは、円にどのような特ちょうがあるからですか。

下の1から4までの中から最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 1つの円の半径の長さは、どれも同じ長さになる。
- 2 円周の長さは、直径の長さの約3.14倍になる。
- 3 1つの円の直径の長さは、半径の長さの2倍になる。
- 4 1つの円の直径の長さは、円周上の2つの点を結ぶ直線の中でいちばん長い。

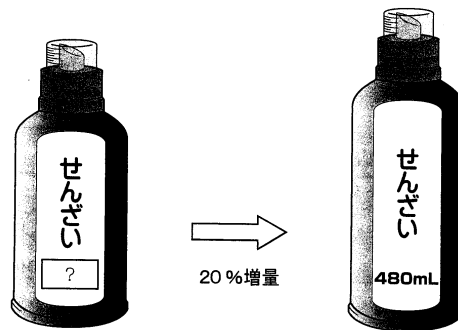
■ 正答は1番。3年生の学習内容である。

算数B「主として『活用』に関する問題」

・この調査問題は今回実施の5つの調査問題で最も前答率が低い。本校の前答率は全国の前答率をわずかに下回った。

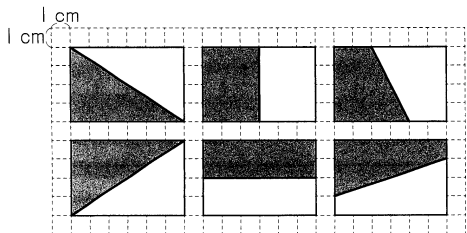
△「平行四辺形の性質の活用」「割合から基準量を求める」「正三角形の性質の実生活への応用」「概数を用いた見積り」「面積が等しいことの理由を記述する」などの問題は、全国的な傾向として前答率が低い。

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。増量前のせんざいの量は何mLですか。求める式と答えを書きましよう。



■ $480 \div 1.2$ $480 \div 120 \times 100$ 等が式の前答例。正答は400ml。このほかにも次に示す問題も前答率が極めて低い。この2問は全国の前答率も同じ傾向がある。問題の意味を理解する。説明をする。根拠をもとに理由を書くなどの学習活動を日常的に行っていくことが求められている。

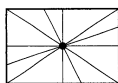
次の図のように、長方形の面積を2等分するために、その長方形に1本の直線を引き、2つの合同な図形に分けました。



上の図を見て、あかねさんは、次のことに気がきました。



これらの直線を1つの長方形にかいてみると、下の図のように、直線は1つの点を通っていることがわかります。



長方形の2本の対角線も、この点を通っています。

あかねさんが気付いたことをもとにすると、長方形の対角線が交わる点を見つけ、この点を通る直線を引けば、長方形の面積をいつも2等分できることがわかります。

- (1) 図1のような2つの長方形を組み合わせた図形の面積を2等分します。まず、図2のように、2つの長方形について対角線が交わる点をそれぞれ見つけます。

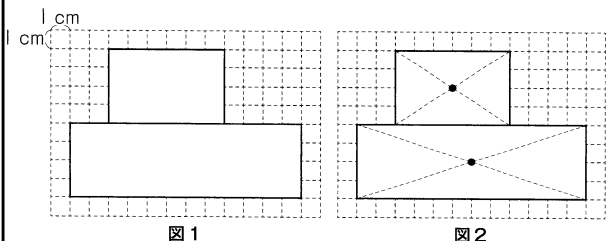


図1

図2

次に、図3のように、2つの点を通る直線を引きます。すると、2つの長方形を組み合わせた図形は、図4のように、オとカに分けることができます。

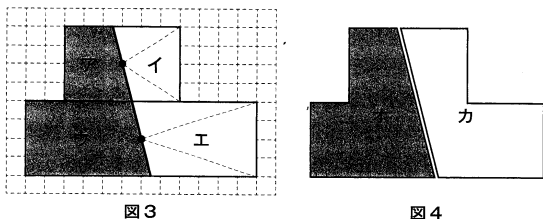


図3

図4

このようにすると、オとカの面積は等しくなります。なぜ、オとカの面積が等しくなるのですか。

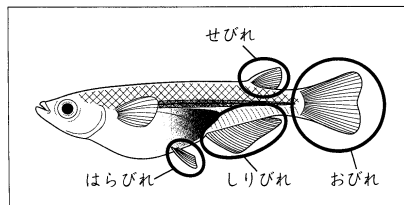
そのわけを、言葉や数、アからカまでの記号を使って書きましょう。

■この問題を読み解いて進むことは大人でも抵抗を感じることもある。当然あきらめて無解答の子もいる。しかし本校のこの問題の無解答率は低かった。再掲となるが、最後まであきらめずに粘り強く問題に取り組んだ本校の子どもたちに拍手を送りたい。

<理科・総評 △要注意>

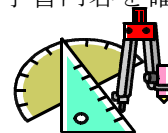
・全国平均正答率をわずかに上回った。
△「メダカの雌雄を見分ける方法を理解している」「メスシリンダーの名称を理解している」問題で正答率が全国平均正答率よりも低かった。

- (1) よし子さんは、水そうの中におすとめすのメダカがいるかどうかを調べることにしました。メダカのどの部分を見ると、おすとめすを見分けることができますか。下の 1 から 4 までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 セビレ
- 2 はらびれ
- 3 しりびれ
- 4 おびれ

■観察や実験が含まれる各学年の学習内容を確実に定着させるなどの課題がある。



3. 教科における主な改善点

<国語>

- *漢字習得のために、日常的に文や文章の中で適切に使うことが重要である。書いた文章を読み返し、正しく使用しているかどうか振り返るよう指導する。
- *相手の話の目的や意図を捉えながら内容を聞き取るとともに、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し自分の考えをまとめられるよう指導する。
- *目的や意図に応じ、取材した複数の内容を整理して記事を書く活動を行うとともに、自分の強く伝えたいことを補うよう記事の目的に応じて適切に引用し、ある程度まとまった文章を書く活動を行う。
- *文章と図やグラフなどを関連付けて読み、図やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているか、図やグラフがあることで文章がどのように分かりやすくなっているのか効果を捉えながら読む指導を行う。

<算数>

- *基礎的・基本的な計算の技能の定着を図るため繰り返し練習する機会を確保し、目的に応じて概数や概算を活用し、結果の解釈と判断の根拠を数学的に表現する指導を行う。
- *単位量あたりの大きさを活用して、合理的に判断し、能率的に処理する活動を充実させ、繰り返し行うように取り組むとともに、何を基として計算するかなど、条件を満たすように考える活動を取り入れる。
- *様々な学習の中で、理由を話し合うなどの学習活動を通して、児童に自分で気付かせるような活動を取り入れて授業を作っていく。
- *図形の性質を基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるように指導する。

<理科>

- *実験・観察を充実させるとともにその結果に対して、変化とその要因とを関連付けて考える活動を充実させる。その際、器具の操作の意味を捉え、適切な使い方を理解させる。
- *植物の観察や月や星・太陽の観察など自然の事物を見て獲得した知識を、実際の自然や日常生活に当てはめて考える活動の充実を図る。

<その他>

- *聞く・話す、書くことを中心に各教科において言語活動を充実した授業を行い、表現する力を付けさせる。
- *ICT機器の有効利用を通して、児童自身がまとめた事項を発表させたり、話し合ったりさせることにより、思考力、表現力を育成する。



4. 質問紙調査の主な特徴

<学校生活>

- ・「学校に行くのが楽しい」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ嬉しかったことがある」など学校生活については肯定的に受け止めている児童が多い。
- ・「将来の夢や目標をもっている」「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分にはよいところがある」などの項目も全国平均を上回っており、自己肯定感をもち、目標をもって頑張っている児童の様子がうかがえる。

<家庭学習>

- ・学校の宿題をする児童はほとんどであるが、授業の予習や復習などの習慣化についてはまだ十分とはいえない状況があった。
- ・学校の授業以外に、普段(月～金曜日)の1日あたりの勉強時間は、1時間以上と答えた児童は全国平均より、やや低い結果となった。しかし全くしないと答えた児童は、平日・土日ともに全国平均よりも少なく、家庭での学習は行われていることは確認できた。

<家庭生活>

- ・朝食を食べている児童は全国平均とほぼ同等。
- ・毎日同じ時刻に寝る、起きる割合も全国とほぼ同じ。基本的な生活習慣の定着が大切である。
- ・普段(月～金曜日)の1日あたりのテレビ・ビデオ・DVDなどの視聴時間では、全国平均とほぼ同等であるが、3時間以上の長時間視聴する児童は全国平均よりも低かった。
- ・普段(月～金曜日)の1日あたりのテレビゲーム(携帯等も含む)使用時間は、全国平均とほぼ同等であるが、3時間以上の長時間視聴する児童は全国平均よりも低かった。
- ・携帯電話やスマホの所有率はほぼ全国と同じであるが、普段(月～金曜日)の1日あたりの利用時間は、2時間以上使用は全国より低く、30分未満の利用は全国より高い。テレビ視聴と併せて決められた時間で使用する家庭での約束づくりがしっかりできていると思われる。

<読書>

- ・普段(月～金曜日)の1日あたりの読書時間(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)は読書時間の長短にかかわらず全体的に高い。子どもたちがよく読書をしていることがうかがえる。

- 新聞を毎日読んでいる児童は全国平均よりもやや低かった。またほとんど読まないという児童の割合も全国平均より低かった。各家庭で新聞から情報を得たり活字に触れたりするなど新聞を活用することも今後の課題である。

5. 質問紙調査からの改善点

- *図書館利用や読書指導はこれまでも力を入れてきた。新聞に興味関心をもち、自分から進んで読もうとする姿勢をもつために、家庭にも協力を呼びかけ今後も工夫していきたい。
- *基本的な生活習慣は、守られている。テレビなどの視聴よりも読書の時間が多いことが推測される。さらに定着と推進を図りたい。
- *昨年度から行ってきた家庭学習の取組を続けるとともに、宿題だけでなく、復習・予習を家庭学習で行うなど質の向上も試みたい。



6. 今後の取組

<学校>

- ・この調査結果は6学年単独の結果であるが、出題範囲は5年生までの学習内容である。全校体制で出題傾向から読み取れる学習内容(理解する力、資料を読み取る力、説明する力など)を教職員が共通理解して日常の授業に生かす。
- ・特に正答率の低かった問題を教職員全体で解く時間をとり、日々の授業でどのような点に気を付けて行うか協議した。
- ・全校体制として授業の目標や目当てを黒板に書き、子どもとのやりとりや話し合い活動など子どもたちが参加する授業を行い、授業の終末にはまとめを板書するなど、「見通し」と「ふりかえり」を意識した授業を行う。
- ・宿題、家庭学習ノートなど、日々の授業のふりかえりができるものを家庭と連携して取り組む。

<ご家庭にお願いしたいこと>以下敬体表現

池の子「家庭学習の4つのポイント」

①家庭での学習時間の目安

- ・低学年…20分 中学年…40分
- ・高学年…60分 が西中校区の目安

②最初に宿題、次に自主学習

③復習はその日のうちに

- ・教科書、ノートで振り返ろう

④時間があれば予習にも挑戦

■小学校の学習は低学年からの積み上げで成り立っています。やはり低学年は漢字練習、計算練習などの基礎基本の充実が大切です。3年生以上から基礎基本を生かしてそれらを活用する学習内容が増えてきます。学校でも日々の授業改善を試みますが、それを支える家庭での学習も大切です。

■舞鶴小、西中、池田小は西中学校区の学校として連携しています。上記の20分、40分、60分の家庭学習時間は両小学校で共通して取り組んでいます。西中では、中1:90分、中2:120分、中3:150分が目安となります。中学校区共通の取組で地域の学力向上を目指しています。24時間は皆に平等です。毎日決まった時間に家庭で学習する習慣を身に付けて中学校に進学しましょう。